



人と農と環境をつなぐ技術を考える

〒194-0013
東京都町田市原町田 1-2-3
アーベイン平本 403
tel / fax 042-725-6250
mail aai@koushu.co.jp
URL www.koushu.co.jp

新代表就任のご挨拶

この度、前任の大沼洋康から引き継ぎ、古賀直樹と小島伸幾が代表取締役役に就任しました。

国際耕種も世代交代の時期をむかえ、数年まえから国際耕種の今後のありかたを考えるようになりました。会社の礎を築いた世代が第一線を退いたあとに残るものはなにか。そして、国際耕種が「らしく」あるために、われわれ後進はなにを引き継いでいけるのか。また次世代にはなにを残せるのか。そんな問いをみずから投げかけてきました。その問いに対して我々は、国際耕種が「らしく」ありつづけるための三つのことを考えています。

一つ目は、組織が「小さな」技術者集団にふみとどまるということです。組織は小さいことでおたがいの顔がみえ、おたがいの顔がみえることで、おたがいの取り組みがみえる。おたがいの取り組みがみえる環境で、職場という「場」での働き方がおのずと異なってくる。それは構成メンバーがかかわろうとかわりません。国際耕種は、小さな技術者集団であることで、その独特の個性を維持したいと考えます。これまでがそうであったように、町田事務所内の小さなテーブルの「場」での議論にこだわり、一人ひとりの構成メンバーの理想と経験の蓄積を最大限にひきだすことのできる場が国際耕種と考えているからです。

二つ目は現場を大事にすることです。国際協力を取り巻く環境は激変しており、また、世界が小さくなり、国際協力を実施していくうえで考慮しなければならないグローバルな課題も多くあります。国際耕種は常にそれらに注目し、配慮していきますが、一方で、国際協力の課題の起点が地域

の人々とそれを取り巻く自然環境や社会環境にあり、活動の成果がそれらに寄与できるものでなければならぬと考えています。国際耕種は当初、乾燥地を中心にそうした活動を展開してきましたが、現在は、対象とする地域の幅は広がっています。それでも、それぞれの現場の環境と人々の暮らしに即し、それぞれのメンバーの知識・技術・経験を活かしていくことは変わらず続けていきます。

最後の点が「つなぐ」ということです。一つ目とも、かかわることですが、国際耕種のような、異なる個性が集まった小さな集団では、互いを尊重し、お互いを活かしあうことでしか組織の力を発揮できません。「つなぐ」という意識をもって会社の力を発揮していきたいと考えています。また、もとより小さな会社ですから、国際耕種だけでは、できることは限られています。意義があり、効果的な国際協力を実施していくためには、他のコンサルタントや研究者、NGO そして、対象地域の人々の協力が欠かせません。

これまでも多くの方々のご厚意、ご協力を得て国際耕種は発展してきました。今後も皆さんとの絆を大事にしつつ乾燥地、農業、普及・研修、環境などの分野での知識や経験にこだわりをもちながら、小さい技術者集団だからできること、小さいからこそできる国際協力のありかたを模索していきたいとおもいます。今後とも、皆様の変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(2019年11月 古賀直樹・小島伸幾)